

講演会のあり方についての提案 (提言)

熊本大学大学院自然科学研究科 小池 克明

講演の組み立て

学会創立以降、計18回の情報地質学会講演会の
発表件数に関する分析

他の同規模学会の講演会との比較

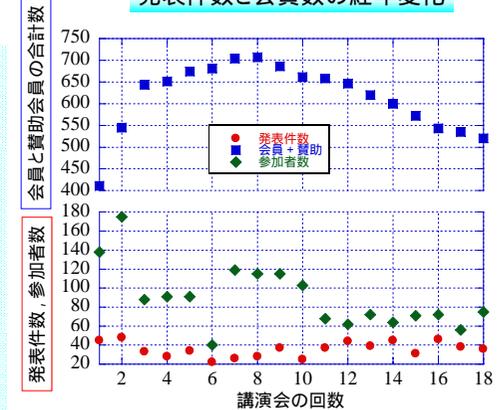
分析結果のまとめ

講演会の活性化に向けての2, 3の提言

学会創立以降の講演会開催場所 (1990年6月～2007年6月)

- 1 大阪市立大学
- 2 通産省工業技術院
- 3 大阪市立大学
- 4 東大総合研究資料館
- 5 大阪桐杏学園
- 6 山梨学院大学
- 7 熊本市国際交流会館
- 8 全通会館
- 9 倉敷市国際学術交流センター
- 10 北大学術交流会館
- 11 大阪市立大学
- 12 東大山上会館
- 13 福岡大学セミナーハウス
- 14 室蘭工業大学
- 15 大阪市立大学
- 16 岡山理科大学
- 17 山梨学院大学
- 18 島根大学

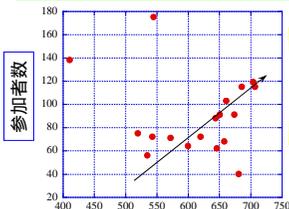
発表件数と会員数の経年変化



学会設立直後の第1回, 2回の参加者が特に高く, 全体的な傾向から外れている。
会員数は第8回大会をピークとして増減しているが, 発表件数は会員数と関連性はない。

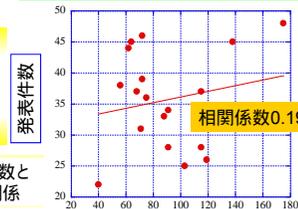
発表件数の増減要因の分析

会員 + 賛助会員数と講演会参加者数との関係



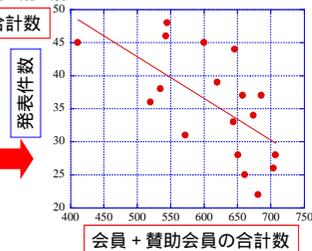
概ね会員数が多いと参加者数も多く, 発表件数が多いときには参加者も多いという当然の傾向

講演会参加者数と発表件数との関係



相関係数0.19

会員 + 賛助会員数と発表件数との関係



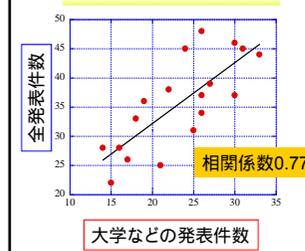
相関係数-0.63

会員数が多いほど発表件数が少なくなるという不思議な負の相関関係

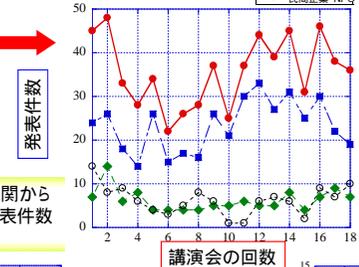
所属による発表件数の分類

大学などの教育機関からの発表が全発表件数を強く支配している。

大学などの教育機関からの発表件数と全発表件数との関係



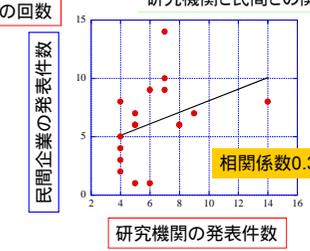
大学などの発表件数



研究機関:

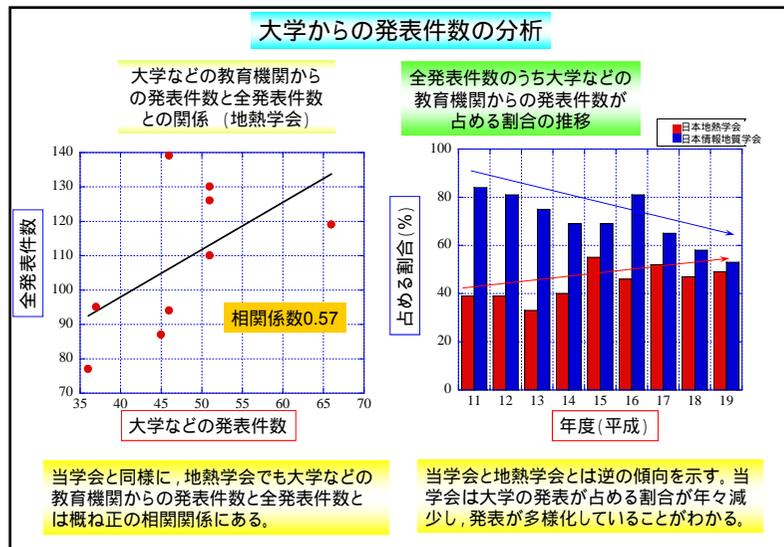
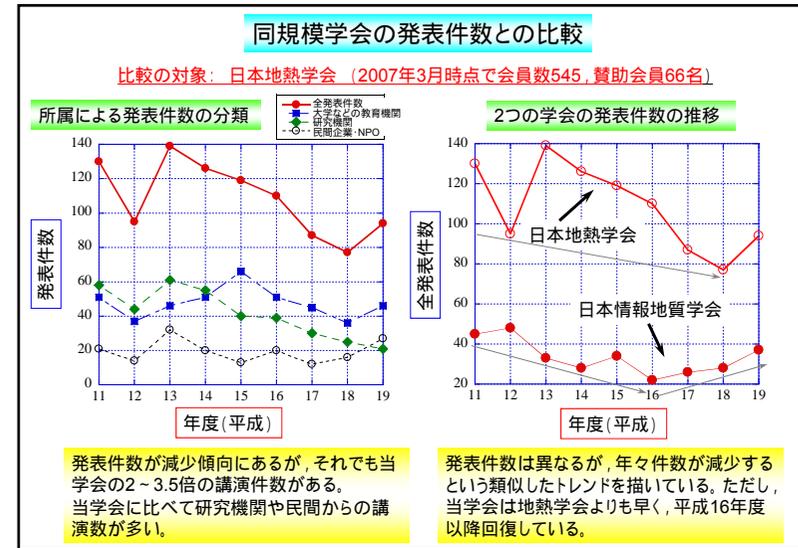
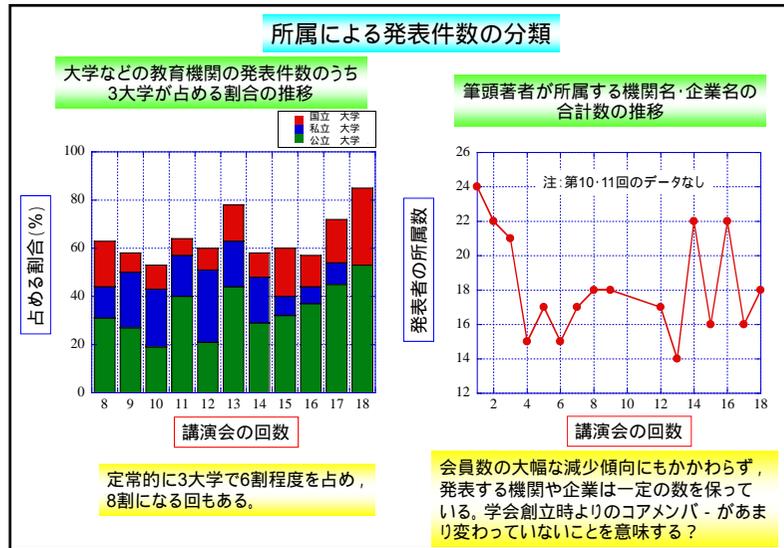
- 地質調査所
- 産総研
- 建設省土木研究所
- 大阪土質試験所
- 北海道立地質研究所
- など

研究機関と民間との関係



相関係数0.38

研究機関の発表件数



講演会を活性化させるには? (1)

すぐ実行できる取り組み

【問題点】
現状の講演会プログラムはタイトルと著者名だけであり、どのようなトピックスであるのか、外部からは分かりにくい。このため、当学会での研究内容(どのようなテーマが研究されているか?)が一目では分からない。

【改善策】
他の学会と同様に、講演会のプログラムのセッションにサブタイトルを付ければ内容がわかりやすくなり、参加者の増加に少しは貢献できると思われる。例えば、

- 9:00-12:00 (一般講演)
 - 【GIS】
 -
 -
 - 【地質リモートセンシング】
 -
 -
 - 【空間モデリング】
 -
 -

類似したテーマで講演を括った方が、質疑応答も活発になるであろう。

また、あるテーマの講演数が多ければ、【GIS - 1 理論】、【GIS - 2 応用】などと分ければ良い。

講演会を活性化させるには？ (2)

学会全体としての戦略的取り組み

これまでのコアメンバーに加えて、多くの新規メンバーの参入が不可欠

大学、研究所、民間にGeoinformaticsの魅力のアピール
- より多くの大学、研究所、民間企業から参加していただくために -

社会との結びつきの積極的紹介 - 新規ビジネスの創出もあり得る？

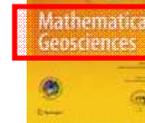
Geoinformaticsは実は地球科学工学のあらゆる分野と融合でき、ともに発展できる可能性があることの提示・研究紹介



Geoinformaticsがカバーする従来の領域の拡張・発展 (特に環境分野)

- IAMGも共通の問題を持っており、会員数の拡大に苦労している。
- IAMGの *Mathematical Geology* → *Mathematical Geosciences* と名称変更
- 異論が多いことは承知であり、これまでも多く議論されたが、これからも学会名に「地質」を入れた方が良いが、名称変更が良いが、学会発展のためにも今一度議論する必要があるであろう。

編集委員長(デミトラコポラス)の強い希望により名称変更(2008年1月より)



Geoinformaticsの関連ジャーナル



主な内容: リモートセンシング

GIS

リモートセンシングとGIS

アジア圏(韓国、中国、ベトナム、インドネシア、タイ、インドなど)での連携強化

- 当学会の国内活動と国際活動の両方の発展

若手にとって活力になる講演会、学会へ

- 奨励賞の見直し(講演会の性質と合わせるために): 奨励賞 → 優秀発表賞(3名?)
- 奨励賞(1名): 「情報地質」への掲載論文、講演会での発表など、これまでの貢献度を考慮